



飼料用米に適した早生多収の 水稲新品種「いわいだわら」

目的と特徴

- ・東北地域に適した早生・多収の飼料用米専用品種の育成を目指しました。
- ・玄米の識別性があり、食用品種への混入を防止することを目指しました。



「奥羽409号」 「ふくひびき」
秋田県大仙市における奥羽409号の草姿
(多肥移植栽培)

※いわいだわら
(育成系統名: 奥羽409号)



「奥羽409号」
千粒重25.8g



「あきたこまち」
千粒重22.2g

**大粒で品質が劣るため
食用品種との識別が可能です**



普及見込み地（岩手県一関市大東地区）における奥羽409号の草姿

普及見込み地域で5年連続の多収を達成しました

成果

- ・「あきたこまち」より出穂期が2日早い早生品種です。
- ・粗玄米収量は、食用品種「あきたこまち」より12%の多収、飼料用米品種「ふくひびき」より0~13%の多収です。
- ・大粒で品質が劣るため、食用品種と識別可能です。

奥羽409号の主要特性

表. 「奥羽409号」と飼料用米標準品種「ふくひびき」、食用標準品種「あきたこまち」の比較

特性	奥羽409号	ふくひびき	あきたこまち	説明
出穂期	7月30日	8月3日	8月1日	育成地の5月18~20日移植において、「あきたこまち」より、出穂期は2日早いですが、登熟期間が長いため、成熟期は3日遅い。
成熟期	9月17	9月16日	9月14日	
耐倒伏性	やや強	強	やや弱	極多肥条件では倒伏することがあるが、慣行の1.5倍程度の多肥条件での倒伏の危険性は低い。
葉もち	不明	やや強	中	真性抵抗性遺伝子 <i>Plb</i> を持つので、圃場での発病は認められない。
穂もち	不明	中	やや弱	
穂ばらみ期耐冷性	弱	やや弱	中	低温深水による検定において、穂ばらみ期耐冷性は「弱」と評価される。

奥羽409号の稈長と収量

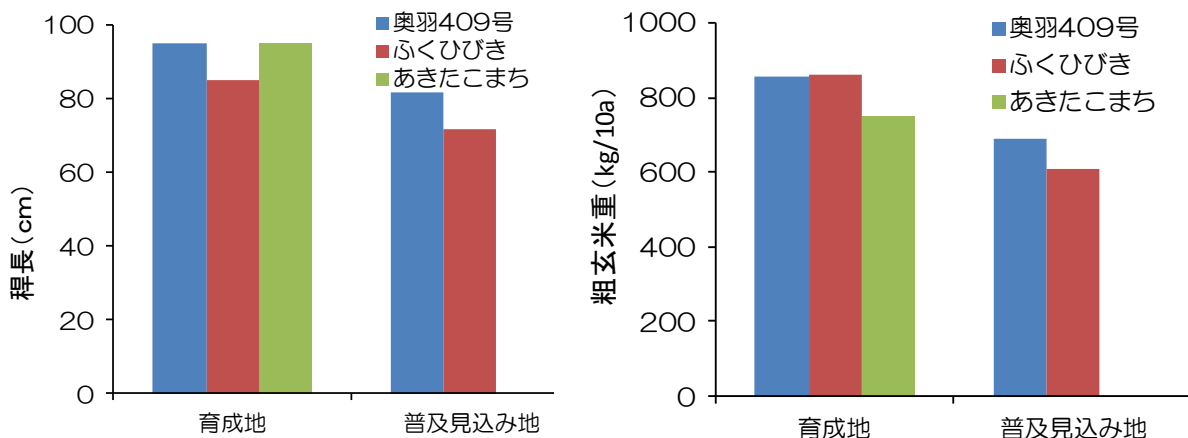


図 「奥羽409号」の育成地および普及見込み地における稈長と収量。

「奥羽409号」の稈長は、育成地では90cm以上と高く、倒伏の危険性があるが、普及見込み地域では80cm前後と倒伏の危険性は低い。「奥羽409号」は、育成地では「ふくひびき」と同等の多収であり、普及見込み地域では「ふくひびき」を明らかに上回る多収である。

対象作物、普及対象

- ・ 水稻、東北中南部以南

対象農家

- ・ 飼料用米品種を栽培している生産者

必要な道具

- ・ 食用の水稻品種とほぼ同様

その他

- ・ 耐冷性が弱いので、冷害の常襲地帯での栽培は避ける。いもち病真性抵抗性があり、現段階では発病しないが、罹病化の情報があれば防除を行う必要があります。